

すると後ずさりしたり、バラ／＼になつたり、雪隠小屋にかくれたりして俺が自転車に乗ると  
ワアツと押し掛けて来る。

敵に後を見せるわけではないが、俺は先を急いだ。

俺一人ではかなはないが、停車場へ行けばこつちのものだと思つた。

だが形勢は非に火を増した。

半鐘の音が行く手に聞え出した。

火事だ、火事だと後ろからおらぶ。

其の辭、火は燃えてゐないのだ。

次の村にちやんと伏兵が居て、兩攻めだ。

之も足袋はだしや、頬かむりの面々が、手に手に六尺豊かの青竹や混棒をたづさえて、ワツシ  
ヨワツシヨと突貫して来る。

兩方から俺を遠巻き包圍して、肉迫して来た。

俺は火箸を逆手に持つて、眼をいからしたが、一撃の下に叩き落された。